

農業の安全・安心を

GAP (農業生産工程管理)

で確かなものにしませんか！！

GAP (ギャップ) とは・・・

「Good(良い) Agricultural(農業の)Practice(行い)」の略で、農業生産活動に潜むリスク(危険度)を把握し、対応策を講ずるとともに、これまで習慣になっていた「不適切な農業の行為」があればそれらを改善することで、未来に向けて持続的な経営管理に取り組むものです。

<農業者が取り組む目的>



何も特別なことをする必要はないんです。
今の農業経営の延長だと思って下さい。



青森県農林水産部食の安全・安心推進課

農家の皆さんが行っている農業活動
そのものが GAP の基本です。

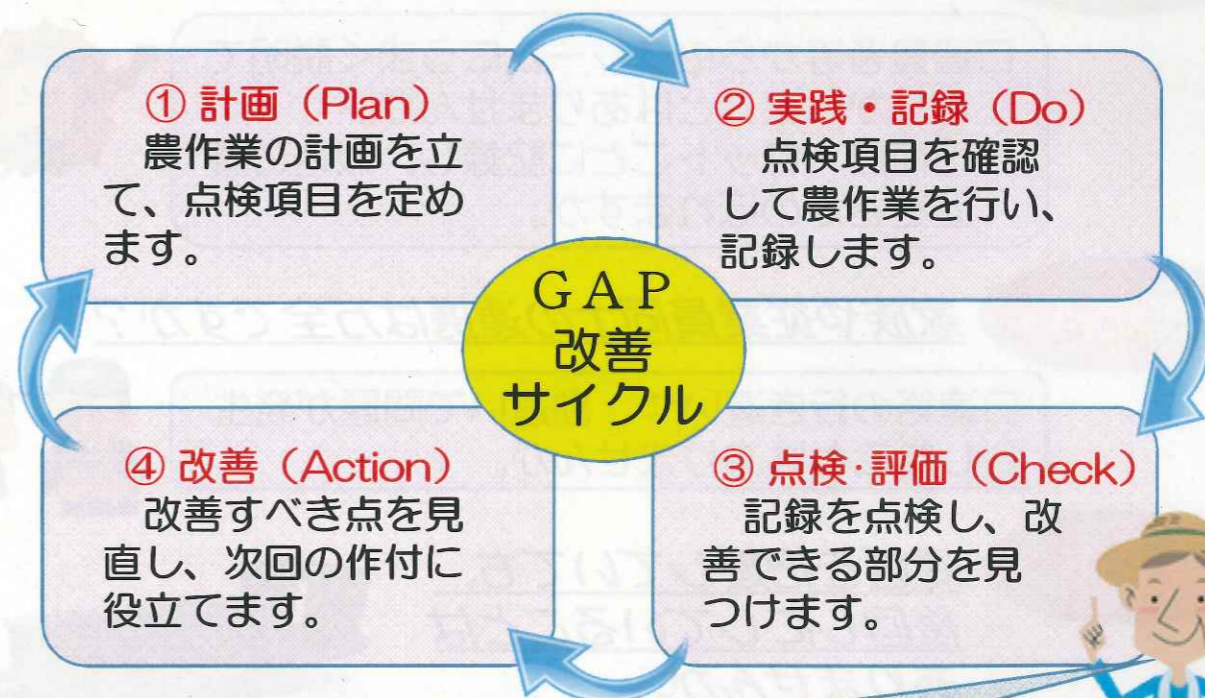


具体的に、何をしたらGAPになるのかな??

法律や農業技術の変化などにともない、これまでの経験や勘だけでは判断できない事や、客観的に確認できない部分を「リスク」(危険)として認識し、改善するための行動に移していけるかどうか重要です。



実際にGAPへの取組手順を見てみましょう！！



あたりまえのことだけど、問題をしっかり認識し、その対策をとってれば、どの作業に問題があったのか、何を改善すれば良いのかが判断できるわけだ。！！



それでは、農業経営に潜む危険の一例を見てみましょう？

その1 危険物の保管・使用方法は万全ですか？

- 誰でも入れる場所に、無造作に農薬を置いていませんか。
- 自分を守る、マスク、手袋等は必ず着用していますか。



その2 農業機械の事故対策は万全ですか？

- 農作業中に「ヒヤリ」としたことはありませんか。
- 「ヒヤリ」としたことを、家族や従業員に伝えていますか。



その3 万が一問題が発生した時の対策は万全ですか？

- 消費者等からのクレームにうまく説明できなかったことはありませんか。
- 出荷日・ロットごとに記録し、栽培の履歴をさかのぼれますか。



その4 家族や従業員同士の連携は万全ですか？

- 連絡の行き違いや、勘違いで問題が発生したことはありませんか。



その5 問題を把握していても、後回しにしていることはありませんか。



問題は、起こってから対応するのではなく、あらかじめ問題の程度を把握し、未然に防止することが重要です。

実際のGAP導入までのステップです！！

準備 GAP推進チームの編成（地域・集団内の合意形成等）

ステップ1 生産活動の点検・確認と危険要因の検討

ステップ2 危険要因の特定と対策の検討

ステップ3 農場のルールづくりとチェックリストの作成

ステップ4 あるべき農業生産を実践、記録、評価、点検

ステップ5 改善策を検討し、農場のルールに反映

※ ステップ3～5は毎年繰り返し（GAP改善サイクル）



GAPの種類は4つです！！

GAPの種類	運営主体	特徴
グローバルGAP (第三者点検)	フードプラ (ドイツに本拠を置く非営利組合)	<ul style="list-style-type: none"> ・世界113カ国以上で実践し、認証取得件数は約14万件(日本196件)、輸出に有利 ・高度な農業管理が実現 ・認証取得や更新に費用負担あり
JGAP (第三者点検)	(一財)日本GAP協会	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の独自規格で、国内約2,500農場が認証 ・高度な農業管理が可能 ・認証取得や更新に費用負担あり
量販店等GAP (第三者点検)	イオン、日生協など	<ul style="list-style-type: none"> ・基準を満たせば当該量販店等と取引が可能 ・量販店等を通じて、農産物の安全性を消費者へPR可能
自己点検GAP	JA、全農県本部	<ul style="list-style-type: none"> ・JAが独自に定めたGAP ・地域の実情に応じたGAPが可能

= 問い合わせ先 =

青森県農林水産部食の安全・安心推進課
 〒030-8570 青森県青森市長島一丁目1-1
 TEL 017-734-9352 FAX 017-734-8086
 または、お近くの地域県民局地域農林水産部（農業普及振興室）へ

